

Jung Sun Hong (著)
紀伊克昌 (監訳)

正常発達 脳性まひ治療への応用

山川友康
(神戸学院大学総合リハビリテーション学部)

著者の Hong 氏は、ボバース法の国際シニアインストラクターとして、韓国内のみならず、アジア諸国など国際的にも幅広い活動を展開している理学療法士である。著者は、今回の監訳者および翻訳者と長年に渡って交流を続け、日韓両国の中枢神経疾患に対するリハビリテーションの発展に大きな貢献をしてきた。また、日本の医師や多くの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士らとも親交が厚く、両国の医療および療育関連職種間の国際親善や国際交流を深めるために多くの活動を続けている。1993 年には、日韓両国の医師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士らと連携して、韓国において初めてボバース法 8 週間講習会を開催し、その後も、継続して当講習会を主宰している。また、インドネシアやフィリピンなど各国でボバース法の脳性麻痺入門講習会を開催し、アジア地域における小児科領域のリハビリテーション発展の牽引者の一人でもある。

本書には、著者の臨床経験と研究から、脳性麻痺の治療に直接利用できる盛り沢山の臨床的アイデアが盛り込まれている。本書の特徴は、正常発達を小児科領域の理学療法に应用できるように、詳細かつ具体的に記述していることである。

本書は、A～E の 5 章から構成されている。A 章の

「正常発達の基本概念」においては、ヒトの運動制御に必要な姿勢オリエンテーションについて概説する。また、B 章の「胎児発達」では、「成長と発達」「胎児環境」「姿勢コントロールの発達」「新生児集中治療室での介入」の 4 つの側面から、小児科領域で働く療法士にとって興味のある情報が記載されている。特に新生児集中治療室 (NICU) において勤務する理学療法士には、参考になる知見が盛り込まれている。C 章の「正常発達の概要」では、発達月齢ごとに姿勢コントロール (背臥位・腹臥位・座位・立位)、視覚、上肢・手、口腔運動、呼吸の各項目別に、簡潔な説明がされている。D 章の「発達から学ぶヒトの正常運動」は、「姿勢変換と支持基底面」「正常発達の質的要素」から構成される。前者は正常発達過程における支持基底面の変化と脳性麻痺児の発達を、対比して記述している。後者では、各姿勢の発達の特徴と脳性麻痺児の各タイプ別治療に関する豊富なアイデアが満載されていて、治療実践に役立つ情報が多く提供されている。D 章は本書の半分以上のページを占めていて、著者が本書で最も力点を置いたことが理解できる。E 章は「付録」とされているが、運動の質的評価表が掲載されていて、臨床的評価として利用できるものである。小児科領域のリハビリテーションに携わる理学療法士は、胎児期から新生児期を含めた正常発達に関する知識を深めながら、治療実践に応用することが求められる。今後、小児科領域において仕事を始めたいと考えている方々はもちろんのこと、経験が豊富な臨床家の方々にも、本書を精読して発達の知識を整理して頂きたい。

●B5 版・130 頁

定価 3,360 円 (本体 3,200 円 + 税 5%)
2010 年 三輪書店・刊